ナラズ、酒ヲ飲ミ或ハ臥シテ温マルトキハ大ニ痒ク、擦抓（カキムシル）トキハ又痛ヲ發シ、脂水ヲ流シ、遂ニ疮瘡頑麻ニナルナリ、或ハ春夏ノミ發シテ、秋冬ハ愈ルモノモアレドモ、先四時トモニ愈ザルモノ多シ、敷藥（ツケグスリ）洗藥ナドニテ一旦愈レドモ、日ヲ經レバ再發ス、温泉ニ浴スレバ其年ハ愈レドモ、來年ニ至レバ必ズ再發シテ、終身愈カヲルモノナリ、

〔倭名類聚抄三〕瘙（瘡）　漢書音義云、瘙、陟玉反、和名比美、辨色立成云、之毛久知、手足中寒作瘡也、

〔箋注倭名類聚抄二〕陟玉反、與玉篇廣韻合、昌平本作竹足反、字異音同、新撰字鏡、輝比彌、按器之罅坼謂之比、又謂之比々禮、故人手之罅坼、亦云比美、醫心方凍瘡訓之毛久、之毛久知、蓋霜朽之義、今俗呼之毛也、計略、○中按應劭、孟康、韋昭、韓韋、劉嗣宗、夏侯泳、包愷、蕭該、並有漢書音義、今皆無傳本、此所引未知何氏書、玄應音義云、瘙謂手足中寒作瘡者也、與此全同、蓋依漢書音義也、又按漢書趙充國傳、手足皸瘙、注引文穎曰、瘙寒瘡也、說文、瘙中寒腫覈、

〔太平記十七〕北國下向勢凍死事

同○延元年十二月十一日ニ、義貞朝臣七千餘騎ニテ、鹽津海津ニ著給フ、七里半ノ山中ヲバ、越前ノ守護尾張守高經、大勢ニテ差塞タリト聞ヘシカバ、是ヨリ道ヲ替テ、木目峠ヲゾ越給ヒケル、略○中佐々木ノ一族ト、熊谷ト取籠テ討ントシケル間、相カヽリニ懸テ、皆差違ヘントシケレドモ、馬ハ雪ニ凍ヘテハタラカズ、兵ハ指ヲ墜シテ弓ヲ不控得、太刀ノツカヲモ拳得（ニギリ）ザリケル間、○略下

〔北邊隨筆四〕雪墮指

史記匈奴傳云、會冬大寒風雪、卒之墮指者十二三、於是冒頓佯敗走誘漢兵云々、こゝにても北越の雪中に日を經たりしものゝ、足くび腐れおちたるを、まのあたりみたりき、されどさる寒地になれたる人は、さる事もなく、かつその防もたくみなるべし、よそよりおもはむがごとくならば、ひと日もそこにはすむものあるまじき也、松前の人、京にのぼりゐたりしが、去はすの頃、かの國に